

阿蘭陀流系譜



阿蘭陀流系譜

富士川家藏本

490.28

0



No.

3230

180

24-2

富士川文庫

302



猶林流系譜

自悉野ホルラント国之辨

得龍子岩永輝房考

夫阿蘭陀ノ国タルヤ 日本唐土ノ西北一万二千九百

里ニシテ 但シ日本一里 三十六丁ノ積 北極地ヲ出ルト四十七度 日本九列

ノ大サニメ合メセ七国アリ曰クセイラント曰クグルウ子ゲ

曰クウイタラキト曰クウルトウント曰クヲブルイゼル



曰クフルイスラント曰クヲランダ以上七国ノ惣名ヲ
通メホルラント国ト云フ唐土ニテハ（皇明世濟錄ニ出）和蘭国或ハ紅毛
国ト稱ス七国ノ内阿蘭陀国ハ海邊ニメ日本其外ノ
諸国エ出船ノ地ナル故日本ニテ昔ヨリ通メラランダ国ト
稱シ習ハセリ此七列ニ国主四人有リ是ヲ号メコンパ
アヤト云フ古ヨリ戦争ノ事ナク風俗甚和順国土
自然ニ禮儀厚ク智甚深シ刀細工巧ニメ工夫多
キ一萬国ニ冠タリ最モ医術ニ奇ナリ人物色白
ク頭髮赤ク短ク鼻高ク眼中ニ白キ星アリ衣
服ハ毛織ノ類ヲ專トス貴賤トモニ冠笠ヲ著ス人ニ

禮スルニ必是ヲ脱グ富貴ハ衣服ニ金銀ヲ飾リ
劍ヲ肩ニ楯ク言語ハイギリスホルトガルノ語ニ近ク
唇ト舌トニテ云フ少シ早口ナリ文字ハ梵字ニ似テ二
十四字アリ是ヲ幾字モ合シテ用ラナス日本ノ伊呂波
文字ノ如シ但シ真行草アリ真書ヲドクルリヤツトルト
云行書ヲメルウリヤツトルト云草書ヲテレゾキリヤツト
ルト云フ此外ニロツプント云フ走り書キノ文字アリ都
テ横文字也左ヨリ右エ書クナリ其外卷物類モ皆右
エ逆ニ卷クナリ餘国ノ人ヨリハ早く成長メ十二三歳ヨ
リ諸業ヲツトム寿ハ大抵五十歳前後ヲ限レリ此

國武士ハ殺伐ヲ主ドルトテ甚賤シニ商人ヲ貴トス
 ル国風アリ甲午ノコンパアヤモ高賣交易ヲ以テ政事
 ノ第一トス国人幼少ヨリ天文地理運氣ノ学ノ修行
 シ船ニ乗リテ世界萬国ヲ經歷スル事ヲ習フ甲午ノ
 コンパアヤノ代官ヲゼ子ラルト云フ是ヲ南海ノ中咬咄
 吧嶋シヤカタラ嶋ノ日本ヨリ
三千三百里但シテ六テノ積ニ役所ヲ立テ居エ置キ萬国ノ高
 賣交易ヲ主トラシメ十五年ニ一度ツ、本國コンパアヤエ
 惣勘定ヲ致ス又此ノゼ子ラルノ下役人ヲカビタント云フ
 是即チ諸国エ往來交易ノ賣長ニメ数人有リ船
 一艘ニ各一人ツ、乘リ來ル例年日本長寄エ着岸

Kitasato Memorial Medical Library

ノ阿蘭陀船ハ五月中節咬咄吧ヲ出船シ七月初節
 入津シ八月九月ノ間賣物交易有リテ九月二十日定テ飯
 帆ス此時節阿蘭陀人ノ内長寄ニ残リ留ル者カビタン一
 人商長ナリ此ノ役人ニ今ハ是ヲトモトリト云
トルト云者アリ考ルセズシケレフマン一人勘定役
筆者アリメストル一人医者
ナリ此
 三人長崎ニ越年シテ明春江戸將軍家エ參禮シ同年
 秋迄長崎ニ滞留ス此年入津ノ阿蘭陀三役者去年入
 津ノ三役ノ者ニ交代シテ歸国ス三役者江戸エ參禮メ
 交代スルノ年々如此○医術ノ奇ナルハ日本唐土ト違ヒ
 定法ニカ、ワラス昔ヨリ年々目前ノ人病ニ當テ古方新
 方トモ効驗多キ方ヲ撰ニ用ユ尤医ノ妙所ニ至ラザ

レバナラザル一ナリ日本唐土ハ草根樹皮ノ乾枯セル
ヲ剉ミ煎シ用エレドモ阿蘭陀ハ兼々新生ノ諸薬品
ヲランビキスランガレトルドカツペルナド云道具ヲ以テ
精気油汁ヲ蒸シ取り器物ニ入気ノ洩レザル様ニ貯エ置
キ夫々ノ病氣ニ臨ミ此病ニハ何ノ方ニ宜シトテ兼々貯エ置
キタル薬精ヲ何種ニテモ熱湯中エ入カキマゼ用薬力最モ
強シ其外煉茶奇茶多シ外科ノ術甚奇也萬國是
ヲ宗トス日本唐土ナドハ腫物出レバ茶ヲ以テ膿シ或ハ散
シ或ハ愈薬ヲ附ケテ治スルナリ其術近ニメ元気毒気
ニ敵セザルトキハ治セス甚シキトキハ死ヲ見ナガラニスル一有

阿蘭陀ハ腫物ノ毒種アル分ヲ直ニ道具ヲ以テ剪リ破リ
肉ヲ洗ヒ骨ヲ削リ金瘡治法ヲ以テ是ヲ治ス其法便ニ
メ奇効アリ吾朝ノ先輩世々是術ヲ外国ヨリ傳テ
門子ニ授クトイエ凡本朝人物性質柔弱ニメ是ノ治法
ヲ受ル一能ワズ蠻国ニ比スレハ横死ノ者必ナカラズ医モ
亦業ニ精密ナラス只口伝ヲ以テ膏薬ヲヒサクノミ如此ナル
トキハ蠻国ニ比スルニ横死ノ甚キ者多シ若夫此道ニ志有テ
真術ヲ傳エハ實ニ国宝ナラン此国ノ君タル人モ亦是ヲ思エ
○外国ノ高船往古ハ肥前国平戸島エ着岸ス寛永十八年
ヨリ同国長崎之津エ着岸スルナリ長崎開港ハ永録年中ニ

又信長公御治世ナリ寛永十八年迄ハ凡八十年也ヲラン夕
國ニ年号ト云モノナシ只開辟ヨリ何千何百何十何年目ト書
ク渡海船其外ノ諸具エモ右ノ如クシルス錢等ニモ廻リニ右ノ如
ク書キ中エ其トキノ玉ノ顔見ヲ鑄附ル和佑玉面錢ト云フ
右辨ハ吾王先生ノ平常說話スル所又此事ニ願ル人ニ依リテ
書キ集ムル者也系譜ノ書ニ願ラザルナリト雖モ本明ラカ
ナラザレハ道精シカラザルニヨリ吾子孫門子タル者ノ爲ニ
誌ス干皆賢曆九年ノ春也

岩永 輝房 隆恭甫

謹誌

カンブルウバレイ

一流ノ太祖阿蘭陀人ナリ

日本業徳院大始天集ノ比ホルラント國ニ出ツ天文地理
人事医術通ゼスト云フ所ナク希代ノ医聖ナリ戎壺ノ
諸国医術ニ奇妙有ル者此人ニ依ラザルハ少シホルラント國
百代ノ医宗ナリト云、日本エ渡ラズ

ラヴプルメストル

ダ子エル

世ニメストルダ子エルト称ス
日本傳來ノ始相ナリ

ヲランダニテ諸役人上役ヲラヴプルト云下役ヲランドロト云日本ニ毎年
苗置、外科ハラヴプルメストルナリ

日本後西院ノ御宇家綱公御治世所始寛文ノ間入朝

ノ阿蘭陀医也

医者ヲヲランダニテメストルト云フ太医ヲラヴプルメ
ストルト云ヒ漆医者ヲランドロメストルト云フカビタン

一人ノモストル一人ニシテレブマシ一人以上三人ヲ毎年日本ニ留置ル令ハト
モトリトス

アレグルウバレイヨリ五百年後ニ出ヅグルウ子ゲ国ノ産
ナリ大ニ天地人ノ理ヲ極メオレグルウバレイノ術ニ通シ
ルラント國中興ノ名医ナリ日本長壽ニ在ルニ二十余年
此人在朝ノ間九列近国ニ於テ病患横死ヲ遁ル者
拳テ計フベカラズ

猶林采休

肥前国長壽ノ産氏ハ猶林字ハ新五兵衛致仕ノ後采
休ト改ム世々阿蘭陀大譯司也性質瘍科之術ヲ好

肥前国長壽縣

ム多子キル長壽在苗ノ間日日新多シテ交リ甚厚ク
多子キルノ術ヲ学ヒ緼奥ヲ究ム病状病名ハ勿論某品製
煉ニ至ルモデ日本ヲランダノ名品ヲ翻譯シ日本ニ無クヲランダヨ
リモ渡ス一ナキ某品ハ其性効ヲ考エ代某ヲ用ユ
四種ノ品類アリ
其他音書湘
有或ハ阿蘭陀国ヨリ持渡ル方劑ノ内日本ニテ製セラルル品々ハ
直ニ其方ヲ傳フ
露精氣類ヲ取法如シ或ハ日本ニ用テ相應ナル
奇方等ハ自製メ後ニ傳フ
テレエギルノ方或ハカニフルブライントイン
ニニ味ノ加味等ノ如シ其外口授ニ有
外日本阿蘭陀ノ風土ヲ考エ其術ニ巧有一毎拳スベカラ
ズ長壽開発以來ノ名医ナリニ男ニ女ヲ産ム医術ハ末
子采哲中ニ傳フ

嫡子
量右衛門 父新左衛門業ヲ継ク

嫡子
長右衛門 父量右衛門ノ業ヲ継ク子
重右衛門 父長右衛門ノ業ヲ継ク

女子

馬田市郎兵衛妻ナリ市郎兵衛ハ河蘭院監使ナリ子ヲ
作中郎ト云譚司ナリ次男ヲ業拙ト云母氏ヲ冒シテ楢林
氏ヲ名乗リ大坂ニ住ス外科ヲ業トス先達テ卒ス業拙子
ヲ業節ト云フ家業ヲ継ク

女子

富佐左衛門妻ナリ佐左衛門ハ長壽ノ産初中尾平四

長右衛門

郎ト云中比富甚右衛門ト云後佐左衛門ト改ム内中郎

ノ街長ナリ舅業休ノ愛婿ナリ甚医術ヲ好ム業休ニ

随テ女子ト一流ノ奥旨ヲ窮ム惜ヒカナ医ノ専門ニ非ザル

嫡子ヲ敏業セト云フ後甚右衛門ト改ム

末子
業哲 是人ヨリ始テ医ヲ業トス

長崎ノ産ナリ始メ他家ヲ継グ後本氏ニ皈ル父ニ随ツテ瘍

一医ノ術ヲ学ビテ子ニルノ道ヲ明ラム医ヲ以テ業トシ猶林一流

ノ医術ヲ興ス後ニ業休ト改名シ近遠ニ鳴ル癩ヲ起シト死ヲ濟

ヒ肉ヲ剝キ骨ヲ緩キ腦ヲ洗筋ヲ渡シ皮ヲ縫ヒ其妙父ニ

劣ラズ門人甚多シ蓋シ女子ニル入朝以前年々入船

阿蘭陀医ニ隨テ学ビ得タル外科法ヲ都テ古流トシ
吉田流西流カスハル 流アリキス流等也
夕子ニル傳來ノ猶林一流ヲ阿蘭陀新流
トス古流ニクラブレバ精密ナル一甚過タリ

嫡子
栄哲

父栄哲ノ業ヲ継ク

明人

野口友山

筑前国福岡ノ産姓ハ藤原氏ハ高津 元禄八年乙亥八
月三日ニ生ル諱ヲ孝紀ト云宇儂ト号ス初メ條右衛門
ト云若年ノ比長寄ニ遊キ樋口善太郎養子ト成リ太

右衛門ト云ラ性質精辨ニシテ甚外科ノ術ヲ好ミ栄休
ノ外腎富氏ト友トシ善シ常ニ勤務ノ餘リ夕子ニルノ医術
ヲ学ビ病症ヲ論レ法業ヲ辨シ畧緼奥ヲ曉ス一日富
氏ノ曰兄外科ノ術ヲ好ム一甚密ナリ然レ吊医ヲ業ト
セザレバ治ヲ施シ試ムル一少ナレ人病百端直ニ症ヲ問
ヒ方ヲ處シ機ニ臨ミ爰ニ應ズル一栄哲ニ若カズ乞フ
栄哲ノ明ニ入其道ヲ究メン一ヲト師諾メ退ク依テ栄
哲ニ行テ師弟ノ盟誓ヲ爲シ道ヲ修煉ス後故有テ長
壽ヲ去リ河内国若江郡八尾村ニ移住ス母氏ヲ冒メ野
口氏友山ト云フ学ビ得タル所ノ医術ヲ以テ貧人ノ痛苦ヲ

救ヒ沉痾ヲ愈シ某劑ヲ施貺ス或ハ同士ト共ニ名境
勝地ヲ経歴シ連歌ヲ樂ム世ニ交ル性ノマニス常ニ
門子ト医術ヲ講ス和河攝ノ間業ヲ受ル者多シ

栄助 翁ノ義子ナリ後本氏ニ皈リ道悅ト云

門人 岩永隆恭

岩永英安

岩永文恭

